

2018 年度コラボミュージアム作品づくりコンテスト

小学校・中学校部門 アピールシート

平成 31 年 1 月 23日

所属名 : 東京都 渋谷区立 代々木山谷小学校

実践学年組: 6 年 1 組

氏名: 細川 卓郎

教科	国語
実践期間	2018 年 6 月 5 日 ~ 2018 年 6 月 12 日
実践タイトル (35 文字以内) 友達からの助言が待ち遠しい! お互いにコメントをし合う短歌推敲シート	
実践の目的 紙の短冊に書いた作品を助言しあうよりも早く、短時間で多くの意見を集める。 また、何度も作品を書き直すことへの抵抗感をなくす。	
実践のポイント・工夫 この单元では、江戸時代の歌人・橘曙覧の短歌を鑑賞した後、自分なりの「たのしみは…」で始まる短歌を作り、「より自分らしい表現」を目指して、友達同士で推敲し合う。友達からの助言をもとに推敲する場面では、コラボノートの共有ページ上で児童が作った短歌を発表し、瞬時に共有化する。これにより、全員の作品に触れる時間を短縮できたり、容易に作品を修正したりすることができる。自分の力で考える時間を確保するため、ふせんの公開設定を「自分のみ表示」とし、みんなで読み合うまでは周りの友達の作品を敢えて見せないようにする。 短歌の共有ページをあらかじめ複製しておくことで、学び合いの前後でどのように作品が変化したのかを比較することが容易になり、振り返りにも役立てることができる。また、コメント機能を活用することで、「より多くのコメントをもらいたい」「隣のクラスの作品にもコメントをしたい」と、作品を評価することへの意欲をもたせることができる。	
実践内容 (簡単に) 第1時では、コラボノート上のページに短歌づくりのポイントを作成し、学習の見通しを持たせた。授業者自身が身の回りの「ちょっとした楽しみ」を紹介することで、一首の短歌が出来上がるまでを具体的に示し、児童への創作意欲をもたせてから短歌を作らせた。第2時では推敲の意味と方法について書かれたページを追加し、「よりよい作品」への価値観に具体性を持たせることで、児童が短歌を推敲する方向性を共通理解できるようにした。そして、新たな観点をもとに自分自身の短歌を推敲させた。公開設定を「個人のみ表示」にしているため、児童は友達の作品への関心が高まり、交流を求めている状態であった。第3時で公開設定を全体へと変え、グループ内の友達同士での学び合いを始めると、お互いの作品を真剣に鑑賞し、多くの助言を与えたり、どちらの言葉がより適切かを活発に議論する姿や、何度も書き直ししながら自分で再度推敲する姿が見られた。	

(コラボノート)を使用してよかった点を教えてください。

コラボノート上に推敲の観点を載せたので、児童がいつでも評価の基準を振り替えることができた。紙の短冊を使って推敲するよりも短時間で多くの情報量が得られ、児童がより多くの助言得て、参考にすることができるようになった。また、「彼のコメントは5件しかないから書いてあげよう。」「2組の作品にもコメントをしたい。」と、鑑賞する作品の範囲を広げ、より多くの助言をしようと意欲的に取り組む姿も見られ、語彙を広げ、より自分らしさがあり、共感を得られやすい作品へと深めることができた。

第3時では家庭の都合で早退した児童がいたが、空港からタブレットで推敲に参加する姿も見られた。

実践記録の概要（単元略案）

※コラボノートを活用した場面だけではなく、全体の学習の流れとコラボノートをどの場面でどのように活用したか記載してください。

全3時間

時数	学習活動	先生の指導・支援 および評価	コラボノート の活用
1	- 単元の学習課題を知り、学習計画を立てる。 - 本時の学習課題を確かめる。 - 短歌二首を読み、三つの観点をもとに内容を理解する。 - 自分が短歌にしたい場面を決め、感動の中心と状況設定を決める。（じぶんタイム） - 短歌のリズムを確かめる。 - 短歌を作り始める。 - 本時の振り返りをする。（じぶんタイム）	- 短歌作りの観点を確かめる。 - 自分なりの「たのしみ」を探し、三つの観点をもとにその時の様子や気持ちを細かく思い出させる。 - 三十一音節の定型を教える。 - 初めて和歌を作ってみて感じたことについてノートに書かせる。 - 表現のしかたを確かめながら、短歌を作ろうとしている。〔発言・ノート〕	短歌づくりのポイントを載せたページを作り、学習の見通しを持たせる。
2	- 本時の学習課題を確かめる。 - 新たな観点をもとに、短歌の表現を工夫する。（じぶんタイム） - より適切な表現に置き換えながら、短歌を完成させる。 - 本時の振り返りをする。	- 表現を工夫するための新たな観点を示す。 「自分らしく」をイメージしやすくするために、「気持ちを直接表す言葉を使わない」「色・形・匂い・味・手触りなどを使う」「比喩を使う」といったより具体的な観点を示す。 - 短歌としての形を整え、次時で読み合う準備をさせる。 - 推敲の前後を比較して、改善したと思う点についてノートに詳しく書かせる。 - よりよくするための表現の工夫をし、条件に合わせて短歌を作っている。〔ノート〕	コラボノートのグループ共有ページに、短歌を入力させる。

3	・本時の学習課題を確かめる。 ・感想、助言の伝え方を確かめる ・推敲した短歌をグループ内で順番に読み、感想や助言を伝え合う。(なかまタイム) ・ほかのグループの短歌を読み、感想をコメントで伝え合う。(ひろげタイム) ・学習のまとめをする。 ・本時の振り返りを書く。(じぶんタイム)	・感想の伝え方について確認する。 ・助言の仕方について確認する。 ・印象に残った友達の感想について発表させる。 ・うまく伝わった表現や、伝わりにくかった表現について振り返らせて、ノートに詳しく書かせる - 作った短歌を発表し合い、表現のしかたに着目して助言し合っている。 [発言・コラボノート]	・公開設定を「みんなに見せる」に変更し、お互いの作品を読み合えるようにする。 ・コラボノートのグループのページを見せる。 ・ほかのグループのページへ移動して短歌を読み、コメントを書くように指示を出す。
---	---	--	--

第6学年 国語科学習指導案

日 時：平成30年6月12日（火）

対 象：渋谷区立代々木山谷小学校

第6学年1組 27名

授業者：主任教諭 細川 卓郎

場 所：6年1組 教室

1 単元名 言葉を選んで短歌を作ろう「たのしみは」（光村図書）

2 単元の目標

- ・短歌のもつ表現の効果を確かめたり、工夫したりすることができる。
- ・作った短歌を発表し合い、表現のしかたに着目して助言し合うことができる。
- ・短歌を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ることができる。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	・表現のしかたを確かめながら、短歌を作ろうとしている。
書くこと	・よりよくするための表現の工夫をし、条件に合わせて短歌を作っている。 ・作った短歌を発表し合い、表現のしかたに着目して助言し合っている。
言語についての 知識・理解・技能	・語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもちながら短歌を作っている。

4 単元について

本単元は、学習指導要領「B書くこと」の目標「オ 表現などの効果について確かめたり工夫したりすること」「カ 書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合うこと」と深く関わっている。また、「短歌」が教材として取り上げられているため、日本の伝統的な言語文化への理解を深めると同時に、日々の暮らしの中にあるささやかな幸せに目を向けさせることで、豊かな心をはぐくむことができる単元である。

単元全体は、四つの段階から構成されている。第一段階では、橘曙覧の短歌二首を参考にして、短歌で表現したい場面を各自で選ぶ。そして、第二段階で、自分が決めた場面を短歌のリズムで表現する。ここでは、短歌のリズムを守って表現できればよい。続く第三段階に、一度出来上がった短歌を自分自身で推敲させ、表現の効果を考えながら別の表現に置き換えさせる活動がある。ここまでに「表現の効果を高めたり、工夫したりする力」を高めることが、本単元のねらいの一つである。

第四段階では、推敲を終えた短歌を発表し合い、感想を伝え合う。ここで、「表現のしかたに着目して助言する力」を高めることがもう一つのねらいとなる。これらの四段階の前後に、学習の見通しを持たせる時間と振り返る時間を設定し、児童に学びの深まりを実感させていく。

5 児童の実態

本学級の児童は知的好奇心が強く、与えられた課題に真面目に取り組んでいる。アンケート結果を見ると、国語の学習にも前向きに取り組んでいる児童が多く、日頃から友達の意見に耳を傾け、自分の考えの参考にしようとする児童が多い。また、タブレットを活用した学習活動にも慣れており、新しい活用方法を考え、実践している姿勢が感じられる。

しかし、意欲的に発表する児童が多い反面、自分の考えを持っていてもうまく発表できなかったり、意見が言えずに戸惑ったりする児童がいる。全体的に文章を読み深めたり、自分の考えや感じたことを文章にまとめたりすることを苦手に思っている傾向があり、感想では「いろいろと楽しかった。」や「すごいと思った。」といったありきたりの表現を使うことが多く、語彙力をつけることの必要性も感じている。最近では全校朝会の振り返りや自主学習ノートの日記などで自分の考えを書く機会を増やしていることもあり、少しずつではあるが書くことへの抵抗は少なくなってきたように思える。

また、五年生では初めて文語詩に出会い、音読などの活動を通して新鮮な感覚を味わい、六年生になってからは歴史の授業などで短歌に触れることで、文語調の響きに親しみを感じているようである。文学作品やドラマなどを通して百人一首に興味を持っている児童もいるので、他の活動とのつながりも持ちながら短歌の優れた表現を味わわせていきたい。

<研究テーマにかかわる児童の実態調査の結果>

実施日：6月 4日 対象：渋谷区立代々木山谷小学校 第6学年1組26名

【質問1】国語は好きですか。

好き	12名
ふつう	11名
あまり好きではない	3名

【質問2】友達と話し合うのは好きですか。

好き	16名
ふつう	10名

【質問3】自分の考えを話すことができますか。

できない	3名
隣の人と話す	2名
グループの中で話す	9名
学級みんなに話す	12名

【質問4】友達の話を聞くことができますか。

最後まで聞くことができる	13名
分からないことを質問して聞くことができる	13名

【質問5】友達の考えで、「すごいな。」「まねしたいな。」と思ったことがありますか。

よくある	9名
ある	12名
あまりない	5名

【質問 6】友達と相談して、よい考えが浮かんだことがありますか。

よくある	9 名
ある	17 名

【質問 7】デジタル教科書を使った勉強は、楽しいですか。

すごく楽しい	8 名
楽しい	16 名
あまり楽しくない	2 名

【質問 8】質問 7 の回答理由（複数回答可）

○すごく楽しい・楽しいと回答した児童 24 名

動画や資料が豊富でわかりやすいから	8 名
画面が大きくて見やすいから	6 名
音読機能で正しい読み方がわかるから	3 名
資料がおもしろいから	3 名
その他	6 名

○あまり楽しくないと回答した児童 2 名

目が疲れるから	1 名
国語が得意ではないから	1 名

【質問 9】デジタル教科書を使った勉強は、分かりますか。

よく分かる	19 名
分かる	7 名

【質問 10】質問 9 の回答理由（複数回答可）

○よく分かる・分かると回答した児童 26 名

大事な部分をペンで直接記入でき、わかりやすいから。	10 名
画面が大きくて見やすいから	7 名
動画があってわかりやすいから	4 名
その他	5 名

○あまり分からないと回答した児童 0 名

【質問 11】タブレットを使った勉強は、楽しいですか。

すごく楽しい	12 名
楽しい	12 名
あまり楽しくない	2 名

【質問１２】質問１１の回答理由（複数回答可）

○すごく楽しい・楽しいと回答した児童 ２４名

いろいろな機能があって便利だから	８名
コラボノートでみんなの意見を見ることができるから	６名
タイピングが楽しいから	３名
インターネットで調べ学習ができるから	６名
その他	１名

○あまり楽しくないと回答した児童 ２名

字を書くのが遅くなるから	１名
鉛筆を持つ機会が減るから	１名

【質問１３】タブレットを使った勉強は、分かりますか。

よく分かる	１６名
分かる	１０名

【質問１４】質問１３の回答理由（複数回答可）

○よく分かる・分かると回答した児童 ２６名

自分がわからないことは調べればよく分かるから	５名
時間が短縮できるから	２名
範読をしてくれてわかりやすいから	２名
その他	１０名
・あまり変わらないから ・分からないことがないから ・音声が出るから ・コラボノートでいろいろなことをまとめられるから ・調べ学習ができるから	

○あまり分からない・分からないと回答した児童 ０名

【質問１５】タブレットを使って勉強するとしたらどんなことをしたいですか。

・コラボノートに、上手な自学ノートを紹介する ・調べ学習（歴史上の人物や出来事など） ・児童用のデジタル教科書が欲しい ・コラボノートで自学ノートをつくりたい ・コラボノートで日記を書いてコメントし合う ・スクラッチなど、ゲームを作るプログラミングの学習をしたい ・班のみんなでまとめ資料を作って班ごとに発表したい ・また新聞を作りたい ・ワードで資料をまとめてみたい ・算数で活用したい

7 研究テーマに迫るための手立て

① 自分の考えをもち、伝え合い、深め合う活動

・ 3つの学習過程の設定

前年度に引き続き、主体的・対話的で深い学びにつながる学び合いの実現のために、学習活動の中で3つの学習過程を設定した。

じぶんタイム・・・問題解決に向けて一人で考え、自分の考えをもつ時間
なかまタイム・・・「じぶんタイム」で考えたことを二人組や小グループで話し合ったり、
考えをまとめたりする時間
ひろげタイム・・・「じぶんタイム」や「なかまタイム」で考えたことを話し合い、共有する時間

また、なかまタイムやひろげタイムで自分以外の考えを知ること、自分の考えをより明確にしたり、修正したりして深い学びにつなげる時間も「じぶんタイム」とした。

・ 日常的に語彙力を増やして表現の幅を広げる

六年生は、家庭学習では自主学習ノートを活用している。テーマは基本的に児童が自主的に考えてきたものについて毎日取り組むが、語彙を増やすために、毎日意図的にノートに使用する語句を指定している。指定する語句は、教科書の巻末にある付録「言葉の宝箱」から毎日1つずつ抜粋する。例えば「感銘を受ける」という語句を指定した場合、その日の日記や調べ学習などで「私が感銘を受けた言葉」や「聖徳太子の政治で感銘を受けた所」など、指定した語句を活用して自分の言葉でまとめさせる。この活動を毎日続けていくことで、児童に語彙を増やしていく姿勢を身に付けさせ、なかまタイムやひろげタイムで自分の考えを表現できるようにしていく。「言葉の宝箱」のページは、教室に掲示したり、ノートに貼りつけたりすることで、常に新しい語句を確認できるようにしている。

・ 日常的に相互評価の場面を設ける

国語の授業では、初めに二分間スピーチを実践している。児童が自分たちで決めたテーマの中から一つを選択し、はじめ・中・終わりの三文で骨組みの文を作り、公開する。発表する児童は骨組みの文をもとにその場で肉付けをしながらスピーチを発表し、聞き手の児童はその内容や肉付けの度合いについて感想を発表していく。また、総合的な学習の時間では、「オリンピック・パラリンピック新聞」を作成する課題に取り組み、課題を終えた児童同士で相互に感想を書き合っている。

相互評価の場面に慣れさせることで、話し方や聞き方、文章表現といった、伝え合うための技能を伸ばしていき、本時の短歌においても観点をもとにしながら適切な評価をすることができるようにする。

・ 振り返りの設定

毎時間、授業終了五分前に振り返りの時間を設定する。振り返るときには、こちらから観点を与えるようにする。本時では、学び合いの前後で考え方がどのように変化したかに着目させて、感想を書かせる。学び合う前の短歌と、推敲や学び合いをした後の短歌を比較するよう指示を出すことで、児童が考えの深まりを実感できるようにする。

② ICT の活用

・コラボノートの共有ページの活用

ひろげタイムでは、コラボノートの共有ページ上で児童が作った短歌を発表し、瞬時に共有化する。これにより、全員の作品に触れる時間を短縮できたり、容易に作品を修正したりすることができる。自分の力で考える時間を確保するため、ふせんの公開設定を「自分のみ表示」とし、みんなで読み合うまでは周りの友達の作品を敢えて見せないようにする。

また、短歌の共有ページをあらかじめ複製しておくことで、学び合いの前後でどのように作品が変化したのかを比較することが容易になり、振り返りにも役立てることができる。

・コラボノートのコメント機能の活用

グループ内の友達同士で短歌を発表・評価した後、ほかのグループが考えた短歌を読んで感想を伝え合う活動では、コラボノートのコメント機能を活用する。コメント機能を使うことで、限られた時間内で、より多くの児童が双方向のやりとりをすることができ、感想や助言に触れる機会が増え、一人一人がさらに表現方法を工夫した短歌へと昇華させることができる。また、記録として残り、いつでも閲覧できるので、改めて見直したり、振り返りに活用したりすることもできる。

本学級の児童はコラボノートでコメントを書き合うことに意欲的な児童が多いため、本時でもすすんで友達にコメントを残そうとする姿が期待できる。

参考資料：スピーチの相互評価（コラボノートのコメント機能を活用）



8 指導計画（3時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	おもな評価規準
1	- 単元の学習課題を知り、学習計画を立てる。 - 本時の学習課題を確かめる。 「たのしみは」の短歌を作ろう。 - 短歌二首を読み、三つの観点をもとに内容を理解する。 ① 「注目したもの」は何か ② どんな様子か ③ どこから見ているか - 自分が短歌にしたい場面を決め、感動の中心と状況設定を決める。（じぶんタイム） - 短歌のリズムを確かめる。 - 短歌を作り始める。 - 本時の振り返りをする。（じぶんタイム）	『たのしみ』をテーマに短歌を作ろう」という学習課題を設定し、学習計画を立てる。 - 教科書 P89 の短歌二首を音読させ、短歌作りの観点を確認する。 - 様子について読み取れない児童については、「いつ・どこで・誰が・誰と・どんな・どのように」など、より具体的な観点を示して、詳しく考えさせる。 - 自分なりの「たのしみ」を探し、三つの観点をもとにその時の様子や気持ちを細かく思い出させる。 - 三十一音節の定型を理解させる。 - 初めて和歌を作ってみて感じたことについてノートに書かせる。	表現のしかたを確かめながら、短歌を作ろうとしている。 〔発言・ノート〕

2	・ 本時の学習課題を確かめる。		
	「たのしみ」がもっとよく伝わるように、表現を工夫しよう。 ・ 新たな観点をもとに、短歌の表現を工夫する。(じぶんタイム) ④ 「注目したもの」は友達に伝わるか ⑤ 様子が生き生きと伝わるか ⑥ 自分らしく伝えられているか ・ より適切な表現に置き換えながら、短歌を完成させる。 ・ 本時の振り返りをする。(じぶんタイム)	・ 表現を工夫するための新たな観点を示す。 ・ 「自分らしく」をイメージしやすくするために、「気持ちを直接表す言葉を使わない」「色・形・匂い・味・手触りなどを使う」「比喻を使う」といったより具体的な観点を示す。 ・ 短歌としての形を整え、次時で読み合う準備をさせる。 ・ コラボノート of 共有ページに、短歌を入力させる。 ・ 推敲の前後を比較して、改善したと思う点についてノートに詳しく書かせる。	・ よりよくするための表現の工夫をし、条件に合わせて短歌を作っている。〔ノート〕

3 (本時)	・本時の学習課題を確かめる。	・公開設定を「みんなに見せる」に変更し、お互いの作品を読み合えるようにする。	
	推敲した短歌を読み合って、感想や助言を伝え合おう。 ・感想、助言の伝え方を確かめる。 ⑦ 友達が「注目している」と感じたもの ⑧ 「すてきだな」と思った表現と、その表現から伝わってきたこと ・推敲した短歌をグループ内で順番に読み、感想や助言を伝え合う。(なかまタイム) ・ほかのグループの短歌を読み、感想をコメントで伝え合う。(ひろげタイム) ・学習のまとめをする。 ・本時の振り返りを書く。(じぶんタイム)	・感想の伝え方について確認する。 ・助言の仕方について確認する。 ・コラボノートのグループのページを見せる。 ・ほかのグループのページへ移動して短歌を読み、コメントを書くように指示を出す。 ・印象に残った友達の感想について発表させる。 ・うまく伝わった表現や、伝わりにくかった表現について振り返らせて、ノートに詳しく書かせる。	

9 本時の学習（第3時／3）

（1）本時の目標

- ・ 友達の短歌を読んで、表現に着目して感想や助言を伝えることができる。
- ・ 自分が工夫した表現の効果を振り返ることができる。

（2）展開

	学習活動 ・ 予想される児童の反応	○学び合い ■ICT の活用目的	◇支援 ◆評価
導入	1. 本時の学習課題を確かめる。 「友達の短歌を読んで、ポイントをもとに感想や助言を伝え合いました。」	■コラボノートの公開設定を「みんなに見せる」に変更することで、友達の短歌への興味・関心をもたせる。	◇前時までに誤字・脱字を点検させておく。 ◇本時の学習課題（めあて）をノートに書かせる。
	推敲した短歌を読み合って、感想や助言を伝え合おう。		
展開	2. 感想と助言を伝えるときのポイントを確認する。	■コラボノートのポイントを示したページをスクリーンに表示し、全体で確認できるようにする。	◇ポイントを印刷したワークシートをノートに貼り、観点と書き方を常に確認できるようにする。
	感想の伝え方 ●●さんが注目した ものは です ⑧ 「すてきだな」と思った表現と、その表現から伝わってきたこと ⑦ 友達が「注目している」と感じたもの 感想や助言を伝えるときのポイント		
（なかまタイム）	3. グループ内で短歌を書いた短冊を順番に発表し、ポイントをもとに感想や助言を伝え合う。 ・ 注目したものは「妹」ですね。私も兄弟がいるのでわかります。	■「見る」モードでグループ内のページを見ることで、作品を瞬時に共有できるようにする。	◇なかまタイムの手順を黒板に掲示する。 ◇作成した児童が順番に短歌を読み上げ、感想と助言を教えてもらう。
（ひろげタイム）	4. ほかのグループの短歌を読み、感想や助言を伝え合う。 ・ 「読みつくすとき」は「読み終わるとき」にした方が、達成感が感じられると思います。 5. 学習のまとめをする。 ・ 自分では思いつかなかった表現を助言で言ってもらえてよかった。 ・ 読み合う前までうまく伝わるか不安だったが、自分が書いたことに共感してもらえて安心した。	■「見る」モードで、ほかのグループのページへと移動し、友達が書いた短歌にコメントを書かせることで、多くの感想や助言に触れられるようにする。	◇隣の席の人にコメントを書いてから、ほかのグループのページへ移動して短歌を読むように指示を出す。 ◇印象に残った友達の感想について発表させる。 ◆作った短歌を発表し合い、表現のしかたに着目して助言し合っている。〔発言・コラボノートのコメント〕

まとめ (じぶんタイム)	6. ノートに本時の振り返りを書く。 ・○○さんから、もっと注目したものを表現したほうがいいと言われたので、たしかに他の言葉を使った方がいいなと思った。 ・別の視点からアドバイスをもらえてうれしかった。	■「見る」モードで友達からのコメントを見ることで、本時の振り返りに反映させる。	◇学び合いを通して気付いたことや、うまく伝わった表現、伝わらなかった表現などを振り返らせて、ノートに詳しく書かせる。
-------------------------	---	--	---

10. 板書計画

